



おくすり通信

No. 11 肺炎球菌ワクチン

こんにちは、薬剤科です。2026年4月から高齢者の肺炎球菌ワクチンの定期接種で使用できるワクチンの種類が変更となっています。

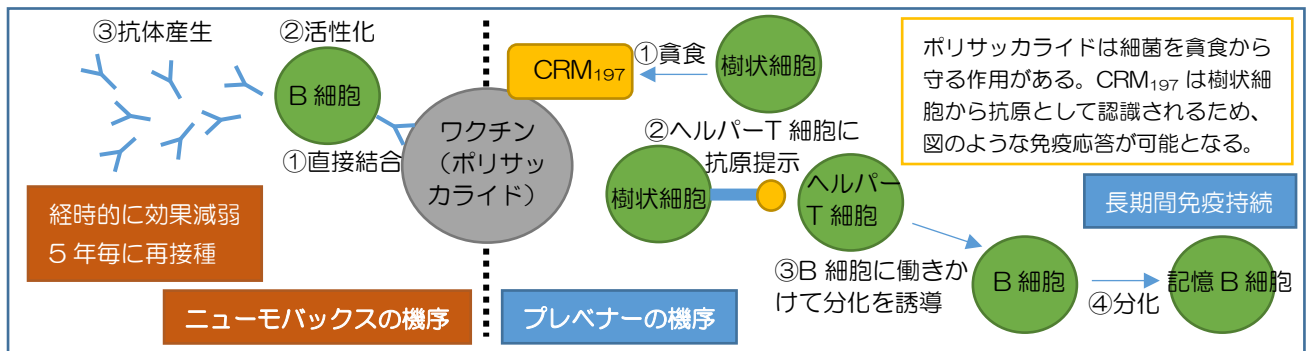
《定期接種》

2026年4月1日から高齢者の肺炎球菌ワクチンの定期接種で使用できるワクチンの種類が変更となりました。今までは「ニューモバックス NP」でしたが、今後は「プレバナー20 水性懸濁注」が定期接種の対象となります。肺炎球菌ワクチンを希望される際には製剤名をご確認ください。

- 定期接種対象者
 - ・65歳の方
 - ・60～64歳で対象となる方
 - ・心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方
 - ・ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方
- 定期接種スケジュール：1回

《ワクチンの違い》

肺炎球菌の表面には糖がたくさん連なった「肺炎球菌莢膜多糖体（ポリサッカライド）」があります。肺炎球菌に感染した場合、このポリサッカライドを抗原として免疫反応が起こります。肺炎球菌ワクチンはこのポリサッカライドをもとにつくられています。ポリサッカライドのような多価抗原は T 細胞非依存型抗原といわれ、免疫記憶が形成されにくい免疫応答が誘導されます。



従来のニューモバックス NP はポリサッカライドを精製して作成されています。ポリサッカライドは免疫細胞の一種である B 細胞と直接結合し、B 細胞を活性化します。活性化した B 細胞は IgM 抗体を産生します。この抗体が実際に感染した際に細菌に結合し、それを目印にして貪食作用を持つ免疫細胞が細菌を貪食します。ワクチンを接種してから経時的に効果が減弱するとされており、5年毎に再接種が必要となります。

新しく定期接種に使用されるプレバナーは、ポリサッカライドに「CRM₁₉₇（無毒性変異ジフテリア毒素）」というキャリアタンパク質を結合させています。多糖体ではなくタンパク質が抗原となるためニューモバックスとは異なり、B 細胞だけでなくヘルパー T 細胞を活性化させることができます。活性化したヘルパー T 細胞は B 細胞を記憶 B 細胞へと分化させるため、免疫が長期間維持されます。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。